

## 実技試験受験上の注意事項

公益社団法人日本鉄筋継手協会  
鉄筋継手部検査技術検定委員会  
2021年9月17日改正

### ●共通の説明

- (1) 検定委員の指示に従って受験すること。
- (2) スマートフォン等の電源は試験会場退出まで切っておくこと。
- (3) 試験開始後、試験会場の外に出た場合は、再び会場に戻ることはできない。
- (4) 解答用紙に、受験日・受験地・氏名・受験番号を記入し、受験種類・受験種別は該当する所を○で囲むこと。
- (5) 実技試験解答用紙の※印欄には記入しない。なお、解答用紙の余白や裏面はメモに使用してもよい。
- (6) 受験種別ごとの試験時間・試験体及び試験本数は表1のとおりとする。試験時間内に超音波探傷・測定実技試験及び外観検査実技試験の解答を完了し、所定の場所にて解答用紙を提出すること。
- (7) 質問がある場合は挙手により合図すること。ただし、試験内容に関する質問はできない。

表1 探傷・測定方法、試験体、試験体本数及び試験時間

受験種別	超音波探傷・測定実技試験		外観検査実技試験		試験時間
	試験体本数		試験体本数		
G種	圧接継手	5本	圧接継手	5本	40分間
W種	溶接継手	5本	溶接継手	5本	
M種	機械式継手	5本	機械式継手	5本	
G種・W種 (旧2種)	圧接継手	5本	圧接継手	5本	60分間
	溶接継手	5本	溶接継手	5本	
A種	圧接継手	5本	圧接継手	5本	80分間
	溶接継手	5本	溶接継手	5本	
	機械式継手	5本	機械式継手	5本	

### ●超音波探傷・測定実技試験の説明

- (1) 受験票、筆記用具、超音波探傷機一式、接触媒質、電卓以外は全て机の下に置くこと。
- (2) 試験体は、試験開始まで収納箱から出さないこと。
- (3) 電源は、超音波探傷器のバッテリーに限る。
- (4) 試験体には、筆記用具などで線や字を書き込まないこと。なお、磁石は基準線として利用してもよい。
- (5) 圧接継手は JIS Z 3062、溶接継手は JIS Z 3063 により探傷すること。機械式継手は JIS Z 3063 により鉄筋の挿入長さを測定すること。

- (6) 試験体は図1及び図2のとおり、テープを巻いてある方をU側、反対側をL側とする。

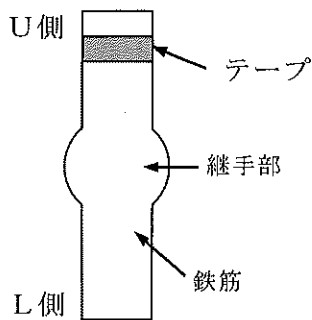


図1 圧接継手及び溶接継手試験体

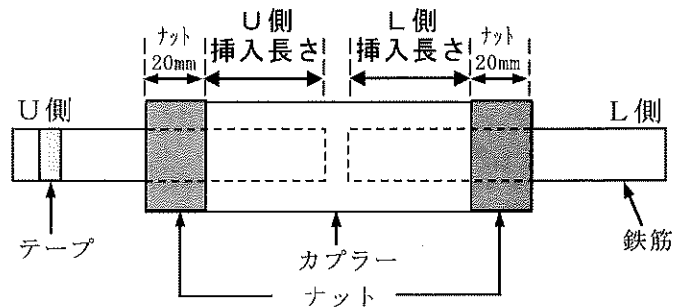


図2 機械式継手試験体

- (7) 圧接継手・溶接継手の試験体は、U側・L側の両方又は一方から探傷した上で合否を判定し、実技試験解答用紙の判定欄にある「合格／不合格」のいずれかを○で囲むこと。また、合否判定に必要な基準レベルを記入すること。
- (8) 機械式継手の試験体は、図2のとおり、U側・L側のカプラーへの鉄筋の挿入長さを、解答欄に整数で記入すること。
- (9) 使用した試験体は、接触媒質を十分に拭き取って元の箱に収納すること。
- (10) 終了後、受験場所を清掃し、私物を持って外観検査実技試験に移動すること。

### ●外観検査実技試験の説明

- (1) 筆記用具以外の物は全て机の下に置くこと。
- (2) 机の試験体組名が掲げられている側で受験すること。
- (3) 圧接継手・溶接継手・機械式継手とも、試験体の上側の表面に白色でマークされた継手部に対して実施すること。ただし、試験体には触れないこと。なお、側面や裏面は検査対象外とする。
- (4) 該当する項目欄に、試験体番号を記入すること。

### ●実技試験終了後

受付に移動し、実技試験解答用紙に終了時刻の記入を受け提出した後、指示に従って退出すること。なお、受験証明は持ち帰ること。